



発行所 三四会医学部新聞編集室 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地 電話(3353)1211 内線64996 会員について 年会費 1000円 購読料が含まれる 発行人 武田純三 毎月1回20日発行

信濃町駅前・各種診療 慶應義塾大学病院 外来診療時間 午前8時30分～午後5時 午後5時～午後7時(受付) 夜間・休日・緊急外来 電話 03-3353-3000(1号機) 03-3353-3001(2号機)

# 医学部 新執行部発足

10月1日より、天谷雅行医学部長のもと、新しい医学部執行部が設立。6人の医学部長補佐が選任されました。今号では、新医学部体制の顔ぶれを紹介するとともに天谷医学部長の抱負を掲載します。



**医学部長**  
皮膚科学教室教授  
天谷 雅行(64回)

**医学部長補佐**  
(総務・倫理担当)  
病理学教室教授  
坂元 亨宇(64回)

**医学部長補佐**  
(研究・大学院連携担当)  
先端医学研究所情報情報部門部門長  
河上 裕(59回)

**医学部長補佐**  
(診療・医学部病院連携担当)  
内科学(消化器)教室教授  
金井 隆典(67回)

**医学部長補佐**  
(教育・学部連携担当)  
健康マネジメント研究科教授  
武林 亨(68回)

**医学部長補佐**  
(国際連携担当)  
薬理学教室教授  
安井 正人(68回)

**医学部長補佐**  
(産学連携・広報担当)  
整形外科教室教授  
中村 雅也(66回)

## 大学院医学研究科委員長が決定

10月1日より医学部新体制が着実に合わせて、大学院医学研究科でも岡野栄之研究科委員長が就任した。慶應医学部が次の100年を歩み始めたこの年、慶應義塾大学、病院、医学部において新体制が確立したが、その中で大学院医学研究科はどのような道を進んでいくのか、岡野研究科委員長より就任の抱負を寄せてもらった。

Scientificの育成という観点から、医学研究科は極めて重要な役割を担っています。また、大学院生を優遇する環境を整えていくことが、優秀な人材を集めることにも極めて重要であり、重要な研究は、大学院に含ませたいと思っています。医学研究科を世界から優秀な人材が集まる活カのあるものに、院内に力のあるものにする。競争力のあるものにする。現在、世界で競争力のあるものにする。英国のオックスフォードは、まさにこのスタイルが...



## 医学部長就任のご挨拶

本年10月1日より、2年間の任期で、医学部長を拝命いたしました。大変光栄であるとともに、身の引き締まる思いでございます。私は、副院長として3期、学部長補佐として2期、合計10年にわたる、病院、医学部の両方の運営を間近に見て参りました。そこで得た経験と反省をもとに、医学部次の100年に向けて、世代を経て変わらざるべき目標を設定し、医学部をさらに強く、発展させるための基盤を構築することが何よりも重要と考えています。本医学部執行部の基本スローガンは、「塾・医学部・病院が丸ごと」です。「政策実行」です。塾・医学部・病院にそれぞれ立場の違いがあることは当然です。違う見解を持った時...

## 募金の声

### 大阪から 慶應医学部100年への思い

この夏、慶應義塾大学の同窓会が行われ、同級生と再会しました。同窓会では慶應医学部創立100年記念、新病院建設事業について説明を受け、さまざまな方面で活躍されている同級生の話や、慶應の学生時代や研修時代を振り返る機会がありました。私は、慶應義塾大学に在籍する同級生の中で、大阪府出身の同級生が、慶應義塾大学で研究や医療に関与している姿を見て、驚かされました。大阪府出身の同級生が、慶應義塾大学で研究や医療に関与している姿を見て、驚かされました。

## 新病院棟建設事業募金

慶應義塾大学新病院棟1号館の建設は、来年の4月の竣工を目指して着々と進んでいます。医学部および三代会では、義塾150周年募金の終了後に三代会の持ち分30億円を目標に「新病院棟建設事業募金」の活動が開始され、残すところあと半年となりました。三代会員の先生方におかれましては、新病院棟が三代会員総力の高さの象徴となるよう、できるだけ多くの皆様の御支援をお願いいたします。

### The 22nd Keio Medical Science Prize

第22回 慶應医学賞受賞者

**機能的MRIの開発** 小川 誠二 (Keio Univ)

**がん幹細胞の同定** John E. Dick (Toronto Univ)

2017年11月30日(木) 慶應義塾大学 信濃町キャンパス北里講堂 (北里記念医学図書館2階) 午後2:00~5:30 (受付開始: 午後1時30分)

### 第97回 慶應医学総会・シンポジウム

日時: 平成29年11月11日(土) 13時30分~18時15分  
場所: 慶應義塾大学病院 2号館 11階 大会議室  
主催: 慶應義塾医学部  
後援: 日本学術会議

21世紀に入って革新的な治療法が出現し、現在も活発に研究開発が進められている疾患分野は何か? 関節リウマチに代表される自己免疫疾患は抗TNF $\alpha$ 抗体に代表される生物製剤の導入で疾患のコントロールが可能となりました。またオプジーボをはじめとする免疫チェックポイント阻害薬の出現は分子標的薬とともにもっと進歩した一歩を歩かせていると思えます。さらに現在、これら免疫疾患に対するはたまた新しい治療法が提示され「bench-to bedside」型のトランスレーショナルリサーチが強力に推進されようとしています。本年度慶應義塾学会シンポジウムでは、このように非常に注目されている癌・免疫疾患の治療をめざした最先端研究について、それぞれの分野のトップリーダーの方々にご講演いただくことになりました。まず東京大学理学系研究科 瀧本理教授には「構造生物学と創薬」と題して、特に今後革新的な治療や創薬方法になると考えられるゲノム編集技術について構造生物学の立場からお話をいただきます。先端医療振興財団 福島雅典先生には臨床研究情報センターでの豊富な経験をもとに我が国の臨床研究・臨床試験の現状と課題について、また国立精神・神経医療研究センター 山村隆先生には免疫が関係する神経疾患の病態の理解と新規治療法の開発状況についてお話しいただく予定です。本塾医学部より先端医学研究所 河上裕教授と佐谷秀行教授には最新の癌治療に関し、それぞれ免疫チェックポイント阻害および分子標的薬を基盤とした基礎臨床研究を推進する立場からお話しいただきます。また佐谷教授には臨床研究センターとして慶應義塾大学におけるトランスレーショナルリサーチの現状についてもレポートしていただく予定です。消化器内科学の金井隆典教授からは近年患者数が増加している炎症性腸疾患の生物製剤を用いた治療の現状、さらに現在非常に注目されている便移植による腸内細菌叢制御を介した治療について報告していただく予定です。このように本シンポジウムでは多面的な角度から「癌免疫疾患に挑む」臨床および基礎研究の現状と将来について深く議論されるものと思われまふ。多くの皆様のご来場をお待ち申し上げます。(吉村昭彦 60相当)

**御存知か** 本年7月11日付で、厚生労働省(初任給)技術系事務官の待遇改善が実現した。これにより、公務員一般職(事務系)の事務官の待遇改善が実現した。公務員一般職(事務系)の事務官の待遇改善が実現した。公務員一般職(事務系)の事務官の待遇改善が実現した。...